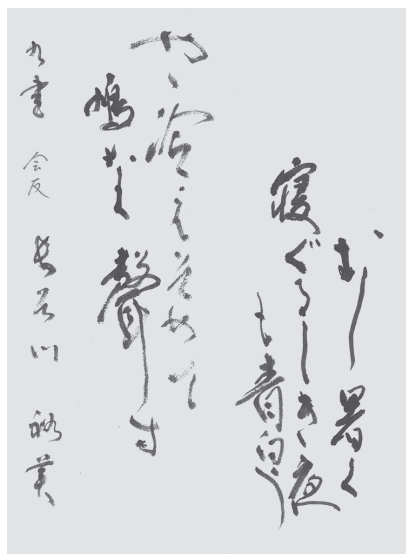


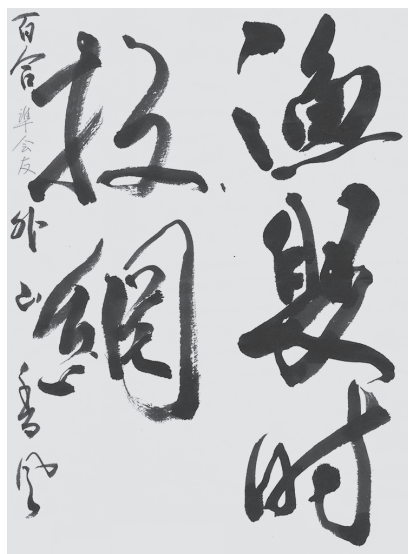
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



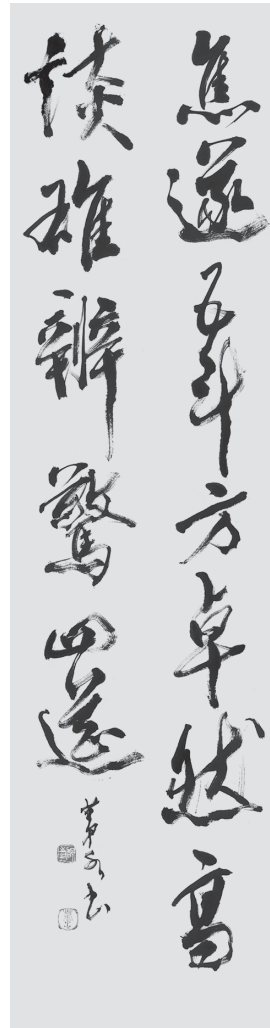
九書 長谷川裕美 穏やかな字づくりで二群のバランスのとれた章法が見事。墨色の変化・美しさを楽しめ、銜いのなさが品位を高めている。雅印があると益々良。
(審査評 吉家 桂雪)

【漢字半紙】



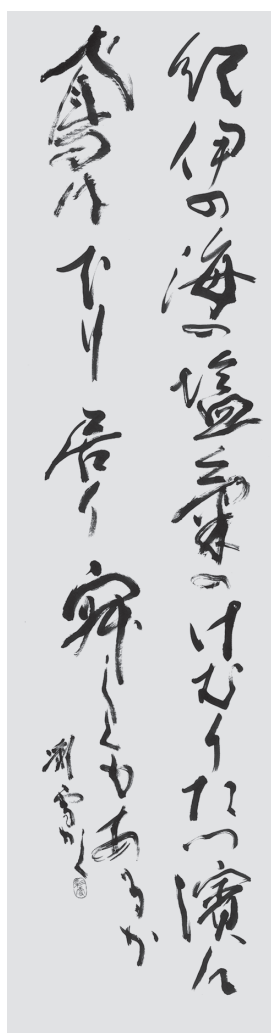
百合 外山 香風 墨色の美しさ、太細、緩急遅速の自在さ、特に縦画の動きがすばらしい。余白のとり方も良く大胆な筆致で見事。
(審査評 田村 紫葉)

【漢字条幅】



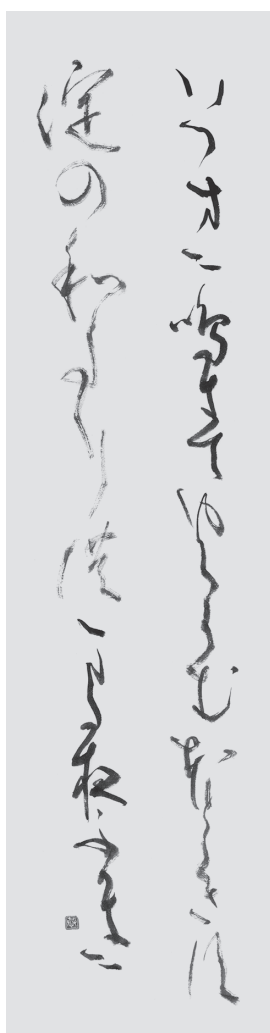
松 角田 茅水 熟達した運筆と筆捌きに、群を抜く墨色の冴えが光る。落ち着いた風情を感じさせる優秀作である。
(審査評 永井 香樹)

【新和様条幅】



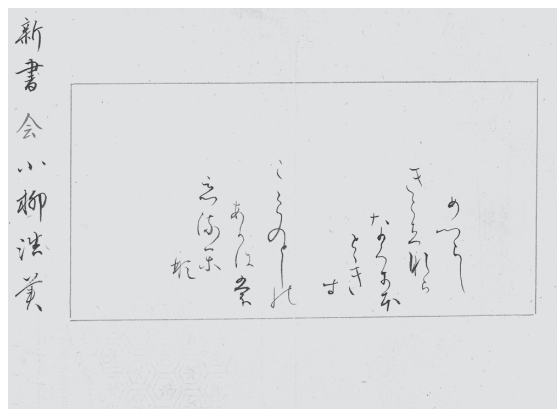
宮城 阿部 絹子 字形、線質共に多種多様であり、全体の構成や漢字、かなの調和等総合的な書美が形成されている。傑出した作品。
(審査評 二宮 桂秀)

【かな条幅】



木月 荒 恭子 大らかでゆったりと呼吸した行の流れあり、錬磨された温かく柔軟な線が生きる。かな条幅ならではの優雅な風が漂う作。
(審査評 中條 琳音)

【かな半紙】



新書 小柳 浩美 墨の潤濁、線の太細、遅速緩急のリズム、空間処理、古筆が意図する小宇宙の美意識をよく理解し精進されている作。
(審査評 西口 貴翠)

7月提出の競書の写真版全作品は、7月24日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

今月の優秀作品



書学
中野 留美
九月庚午朔

杉 準二 磯 小倉 恵子
九月庚午朔

可書 準三 大塚 有莉
九月庚午朔

水 藍 準四 三浦 まこ子
九月庚午朔

井野 準五 藤井 謙二
九月庚午朔

書学
準初 棚澤 一浩
九月庚午朔

大柳 準二 内田 祐子
九月庚午朔

月倫 準三 並木 蓮月
九月庚午朔

星霜 準四 黒田 泰水
九月庚午朔

秋幼 準五 野崎 琴巳
九月庚午朔

春日 山口 恵子
安東 將軍

木月 初段 篠崎 美香
九月庚午朔

春水 二 伊達 宏子
九月庚午朔

九州 三段 森山 輝美
九月庚午朔

品濃 四 藤井 美帆
九月庚午朔

横山 山本 克枝 紋
安東 將軍

加茂 初 中村 優子
九月庚午朔

書学 二 小林 奈保子
九月庚午朔

九州 三段 大久保 忍
九月庚午朔

南丘 四 中島 桃
九月庚午朔

青山 大石 彰
安東 將軍

石部 初段 中村 亜津子
九月庚午朔

書学 二 宮永 江蓮
九月庚午朔

大柳 三 倉田 工三
九月庚午朔

杉本 四 後藤 宏賢
九月庚午朔

郁翠 森本 久実一
安東 將軍

空 準初段 森山 千穂
九月庚午朔

書学 準二 竹中 奈和
九月庚午朔

書学 準三 阿部 文江
九月庚午朔

書学 準四 吉原 淋華
九月庚午朔

誠 萬
美 初

津
園 由 志

書字
本山幸恵子

誠 萬
美 初

書字
渡部奈枝

將 安
軍 東

恵那
足主 啓陽

將 安
軍 東

春日
安生 恵朋

將 安
軍 東

日吉
中江悦子

誠 萬
美 初

星霜
原田 正志

誠 萬
美 初

花月
今田朱美

將 安
軍 東

足利
川里一枝

將 安
軍 東

午間
寺崎則子

將 安
軍 東

阪上
友井 里美

誠 萬
美 初

水藍
佐久間明美

誠 萬
美 初

紅花
笹川 智美

將 安
軍 東

肥山
水野 大ゆり

將 安
軍 東

書字
池田和子

將 安
軍 東

そり
南雲 茜

誠 萬
美 初

書字
細野和子

誠 萬
美 初

書字
浅野由真子

將 安
軍 東

肥山
水野 勝彦

將 安
軍 東

書字
相田美佐子

將 安
軍 東

青空
山崎 昭子

誠 萬
美 初

青空
高橋 恵美子

誠 萬
美 初

書字
真田 夏麻

誠 萬
美 初

和
渡 邊一代

將 安
軍 東

梧星
久米 淡紅

將 安
軍 東

大井
高橋千賀子

誠 萬
美 初

毛む
鬼頭 絵里香

誠 萬
美 初

大楠
姜 俊成

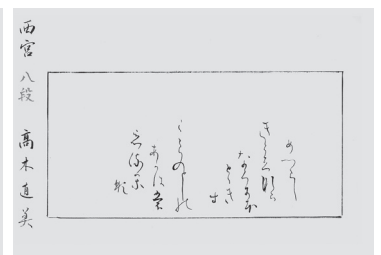
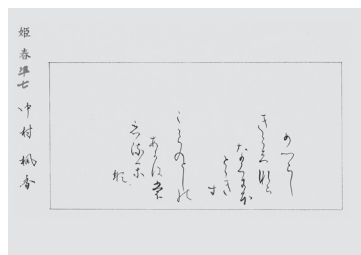
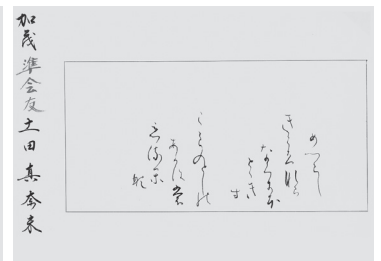
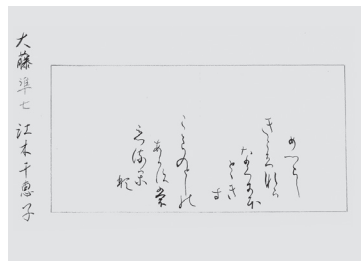
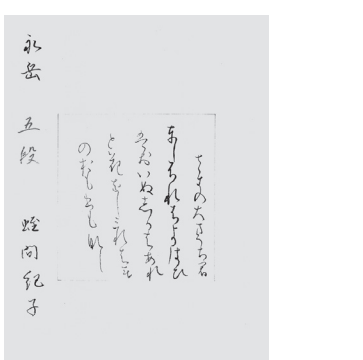
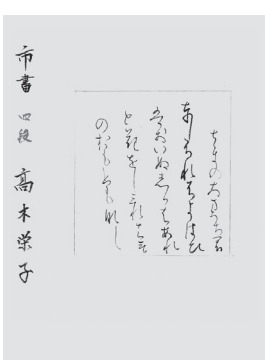
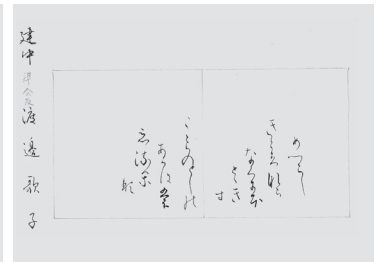
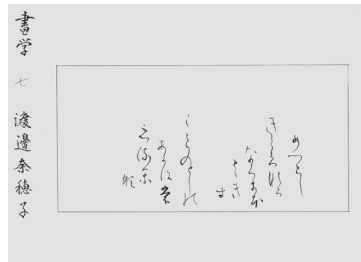
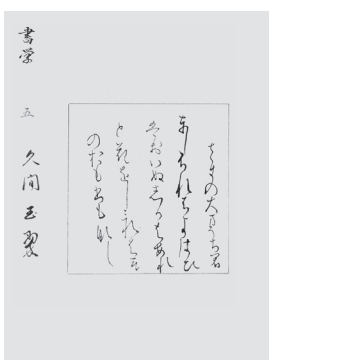
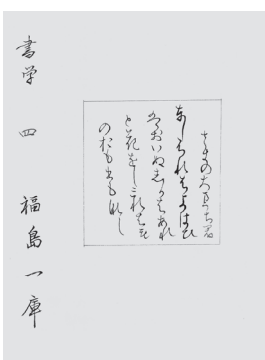
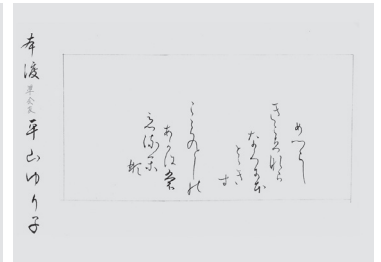
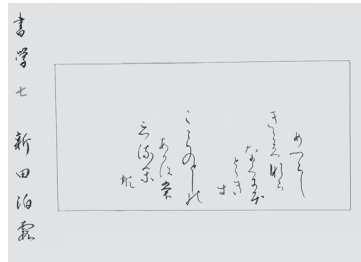
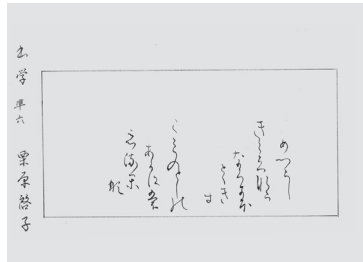
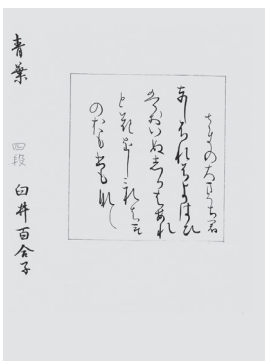
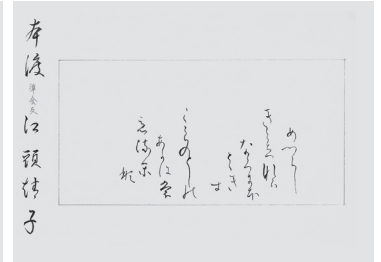
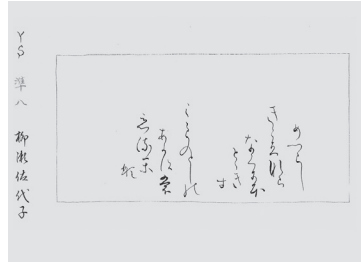
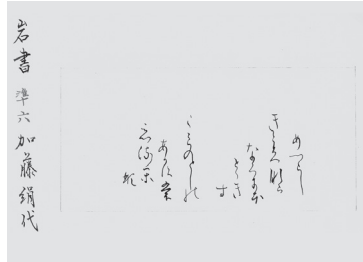
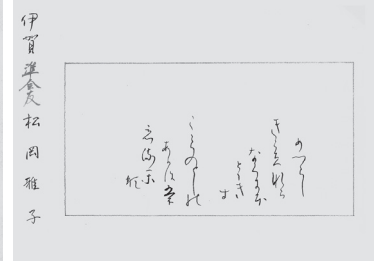
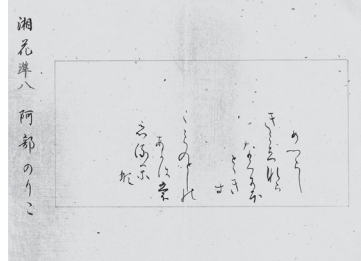
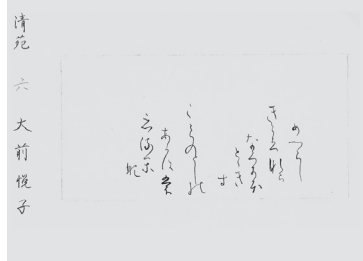
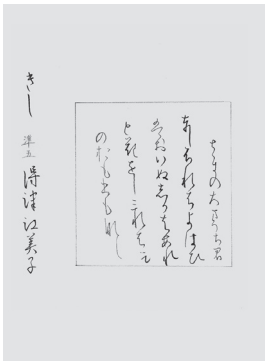
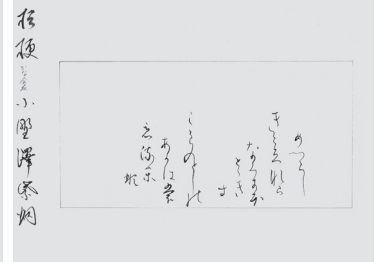
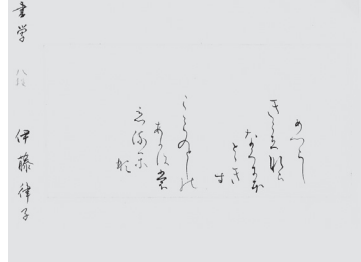
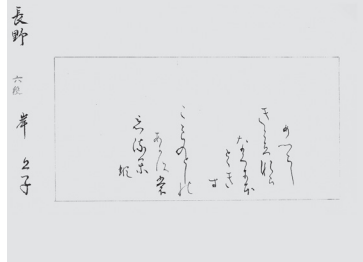
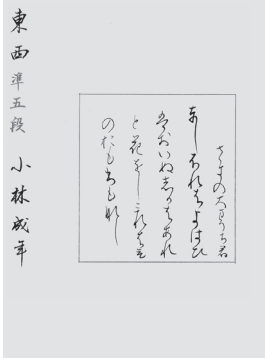
誠 萬
美 初

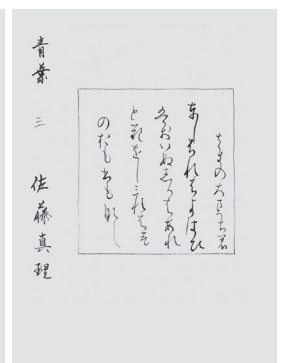
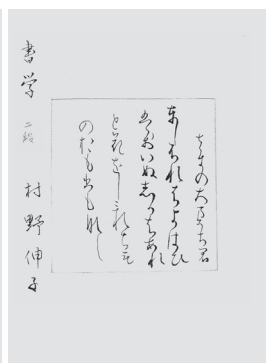
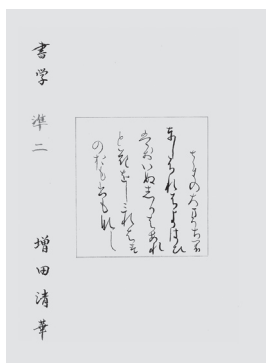
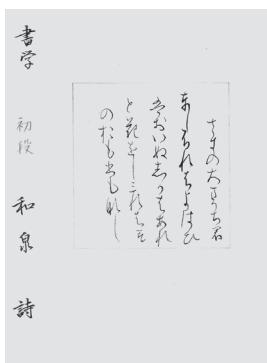
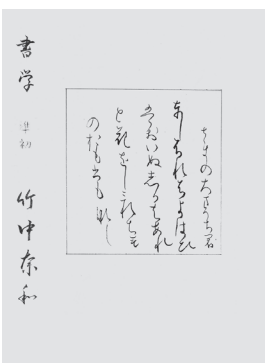
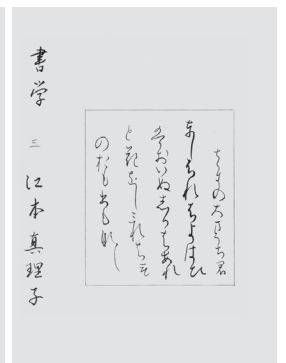
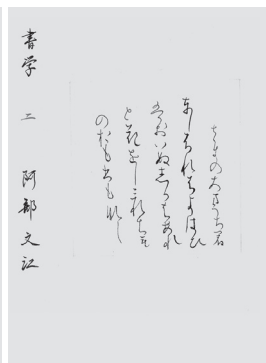
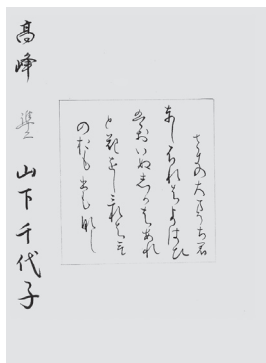
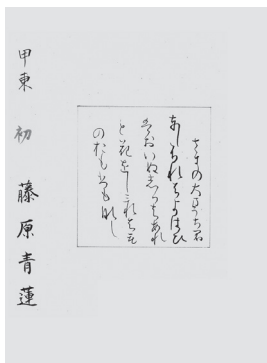
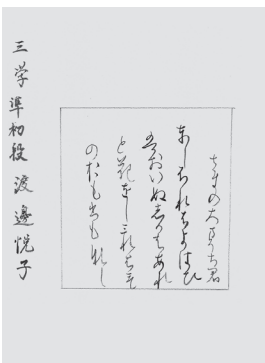
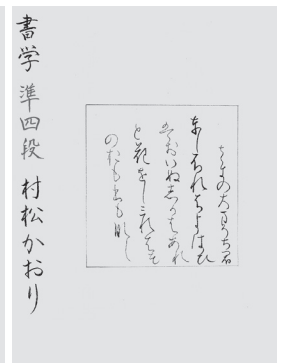
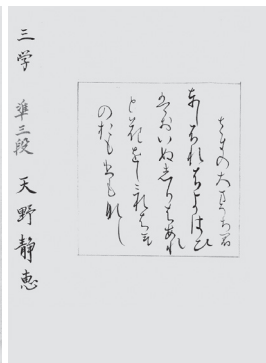
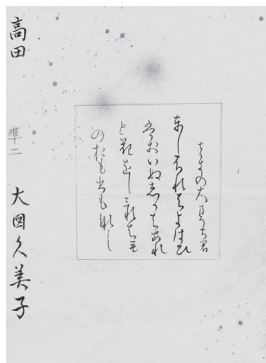
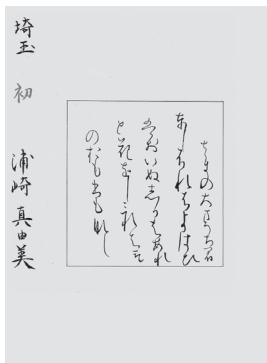
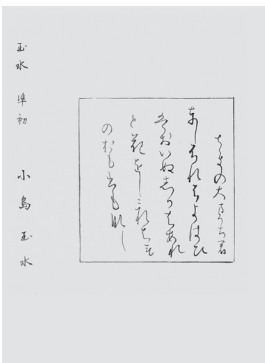
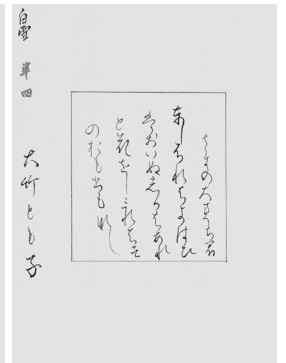
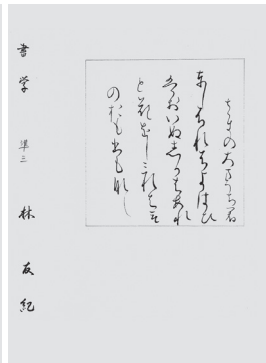
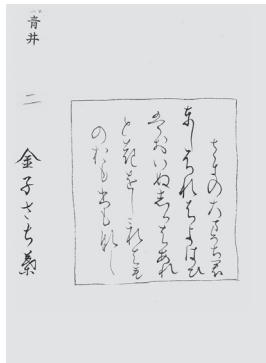
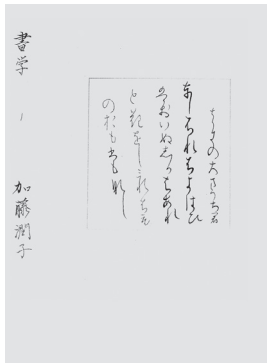
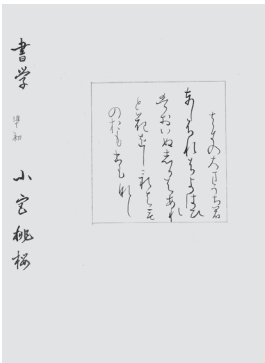
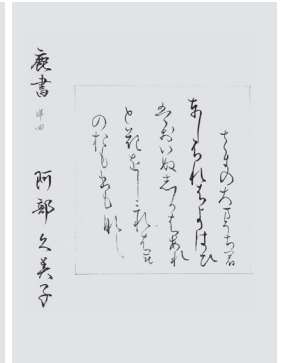
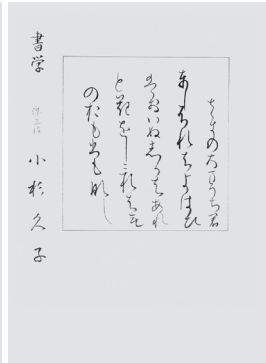
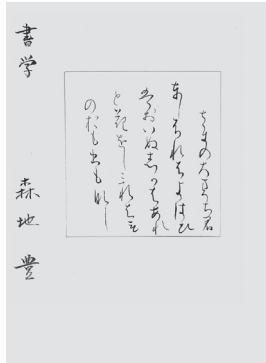
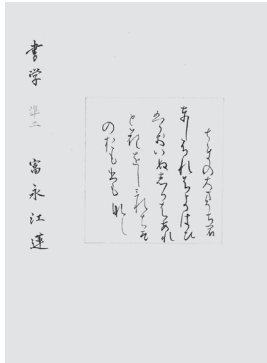
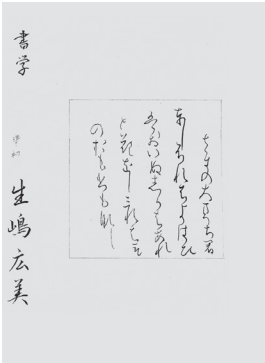
加西
小田 朱莉

將 安
軍 東

青花
安 畫 園子

將 安
軍 東





書学 金澤 麻衣

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

大井 大隅雪江 2

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

書学 福岡聖奈 4

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

ろのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
忘ひもせすん
光書 林美菜 6級

ろのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
忘ひもせすん
桑文 渡邊恭平 7

書学 高見 咲紀 1

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

低倉 小川 純子 3

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

大藤 岩清水久美子 4

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

ろのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
忘ひもせすん
酒井やよい

ろのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
忘ひもせすん
法水 三浦枝里子 8

翠 大越 始美 1

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

長瀬 牧野 孝子 3

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

書学 小野 佑里花

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

ろのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
忘ひもせすん
松本 春奈 6

ろのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
忘ひもせすん
松亭 加藤 晴美 8

横山 比嘉 和子 2

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

書学 野澤 真代子 3

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

六花 三村 莉杏 5

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

ろのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
忘ひもせすん
書学 岡崎 愛子 7

ろのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
忘ひもせすん
廣島 好田 秋奈 9

青花 宇田 利加 3級

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

永岳 岩田 智恵子 4

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

書学 河村 孝子 5

すくやとわやとまぐろとまぐろはた
うつらねとまぐろひともれ

ろのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
忘ひもせすん
南草 友田 将予 7

ろのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
忘ひもせすん
書学 齊藤 凜桜 10

書学
後進士洋
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

書学
七段 長山美穂子
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

伊賀準八 奥谷領代
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

書学
小林美香
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

新書 金友 宮城奈津
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

東西六段 村澤澄子
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

千風
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

書学
八段 藤田麻子
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

仙鶴 琴友 板倉貴美
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

書学 金友 五月あけみ
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

書学
六段 加藤晴美
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

おつ 進段 久満南舟
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

頸城 準八 鶴崎和美
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

永岳 八段 鈴木明子
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

水差 金友 青戸明子
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

書学
六段 野手都子
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

水差
七段 源 貴美
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

忌
七段 宮崎里美
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

日南 八段 穀金居子
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

天草 都賀友里 川良子
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

水差 準六 部 久美
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

書学 六段 本山佳子
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

書学 八段 山崎青林
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

唐前 八段 原田清華
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

小諸 準金友 花園銀華
おー暑く
寝るー夜も
や、冷えるー
青白く
鳩なく
声す

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

永田千寿

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 四 山田恵美子

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 三 海老名恵美子

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 二 中荒井保信

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 初 篠原 重信

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 五 熊倉名代子

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

小諸 四 篠原智巨

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

新井 三 木山由美

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 書 箭内恵理子

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

楳星 初 神田富徳

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 書 伊原多恵子

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 書 四 藤村あゆみ

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 書 三 松田 彩

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 書 二 宮下秀奈

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

楳星 書 岡本恵泉

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 書 五 久岡玉恵

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

FC 準四 中尾友香

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 書 瀬戸口寛子

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

ハ雲 準二 半田由香里

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

小世津 初 川内 溪鈴

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

九雲 津森伸山由紀子

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

草廟 準四 和田ヤエ子

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 書 三 遠藤志帆

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 書 清水 有紀

六月の
低き緑のうへ
わたり
すずしき言も風
動きくる

書学 書 初 武内 愛

秋幼
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
窪田美紀 8

書学
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
深谷美久 6

永岳
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
岩田智恵子 9

翠
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
大越好美 2

梧星
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
高橋圭子 1

MM
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
鈴木絵津子 8

書学
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
小林朋佳 6

羊
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
土田奈津子 4

梧星
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
目黒由華 3

五弟
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
田谷 聡 5

大楠
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
矢口あかり 9

信長
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
坂本恵理子 6

書学
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
渡部杏奈枝 4

大空
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
中谷 修 3級

永岳
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
島田佐知子 1

青空
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
高橋恵美子 1

五香
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
乾 美奈 7

書学
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
徳田友美 5

書学
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
大和谷 裕子 3

梧星
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
福村歩美 2

清和
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
武石有希子 10

書学
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
安田朋来 7

秋幼
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
森澤 若男 5

恵那
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
足立啓陽 4

榊原
墓 鳴くや
間に田が浮き
山が揺れ
中原 聖果 2

焦遂五斗方卓然高
談雄辯驚四筵

伊賀 石田 春代

焦遂五斗方卓然高
談雄辯驚四筵

書字 河口 昭子

焦遂五斗方卓然高
談雄辯驚四筵

川書 渡邊 忠

妙樂自在之處若有
苦累即令解脫

游山 牧岡 牧子

妙樂自在之處若有
苦累即令解脫

友和 上原万里子

白水遶東城

書字 高見 咲紀

白水遶東城

焦遂五斗方卓然高
談雄辯驚四筵

島田 田村 潔

焦遂五斗方卓然高
談雄辯驚四筵

書字 小島 黃雪

焦遂五斗方卓然高
談雄辯驚四筵

松宝 市原 節子

妙樂自在之處若有
苦累即令解脫

新潟 坂井 光華

妙樂自在之處若有
苦累即令解脫

書字 赤田 千恵

白水遶東城

梧星 和泉田生華

白水遶東城

焦遂五斗方卓然高
談雄辯驚四筵

書字 豐福絵理子

焦遂五斗方卓然高
談雄辯驚四筵

書字 尾崎美和子

焦遂五斗方卓然高
談雄辯驚四筵

書字 上村恵美子

妙樂自在之處若有
苦累即令解脫

書字 富永 恵理

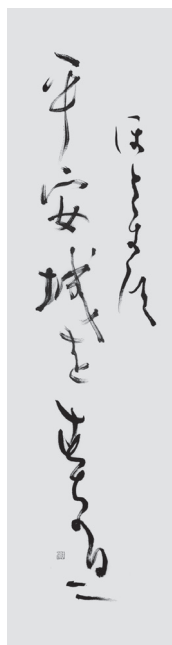
妙樂自在之處若有
苦累即令解脫

梧星 監物 秀華

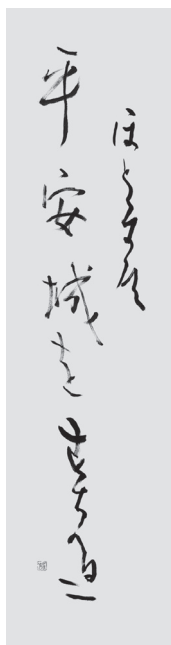
白水遶東城

長秋 榎並真喜子

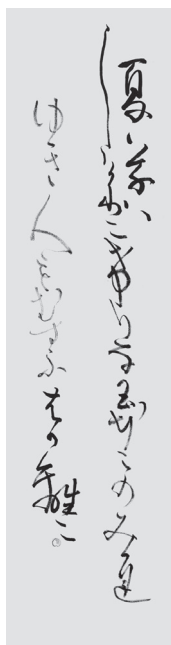
白水遶東城



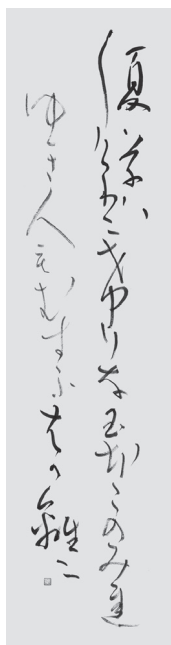
長湫 市川 佳泉



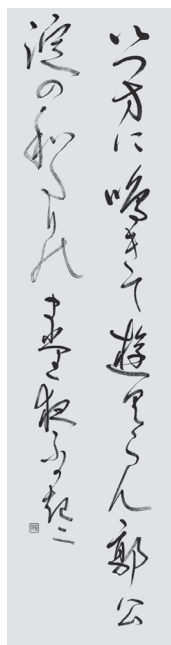
崖雲 首田 崖花



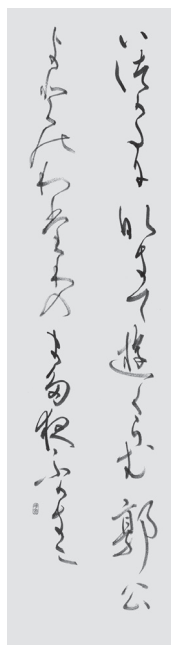
峰水 本吉 智子



書学 西原 薫



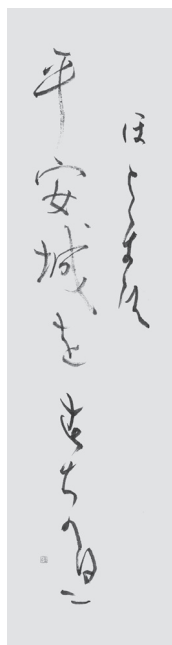
山口 村岡真由美



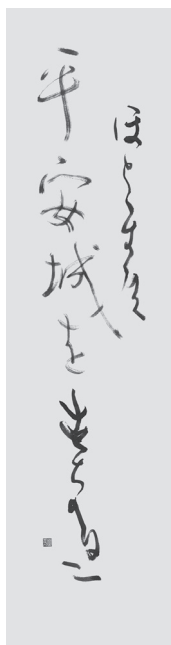
こず 村岡 初江



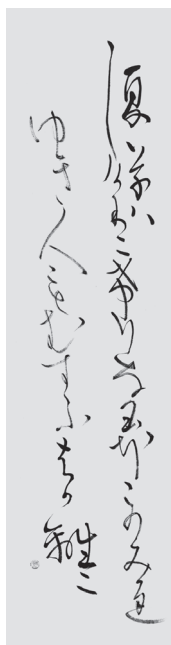
松飛 鹿毛 艸雨



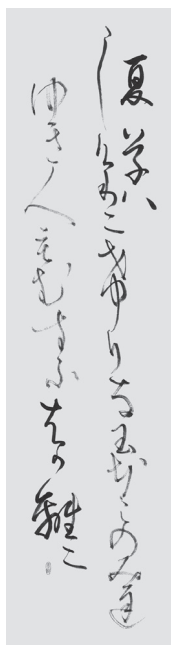
松原 矢野 瞳



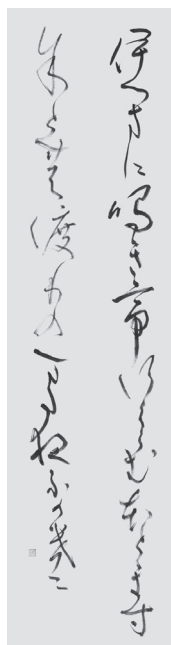
追浜 平田 智世



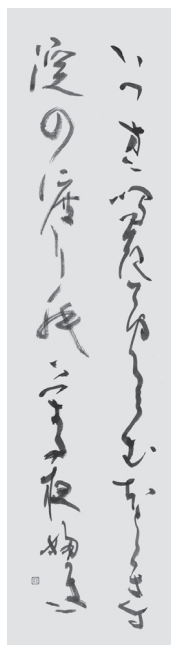
愛光 水田 明美



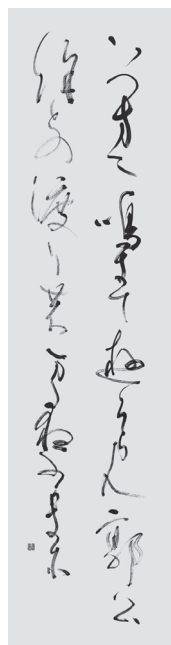
青葉 中村 恵子



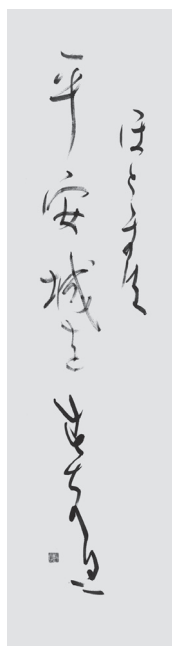
永岳 岡部 瑛心



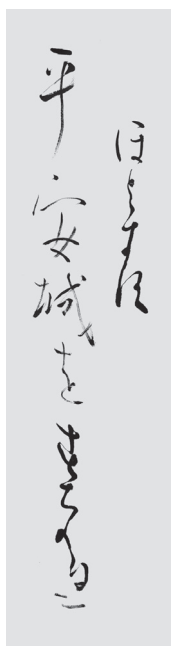
書学 牟田 幸子



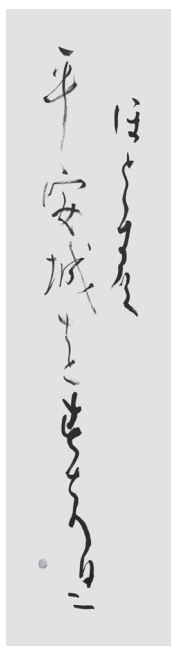
欣書 民部田鳳春



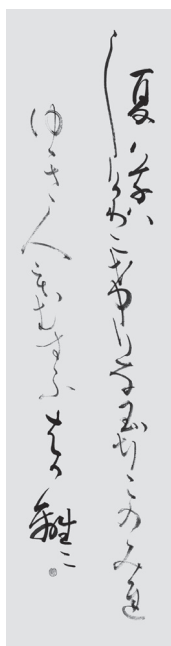
永岳 新井ツヤ子



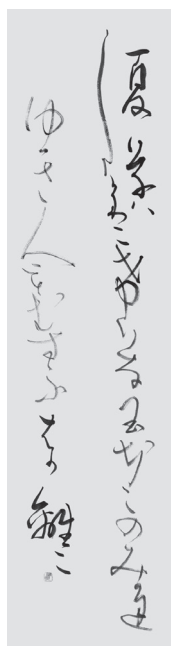
邑心 吉島 慶皋



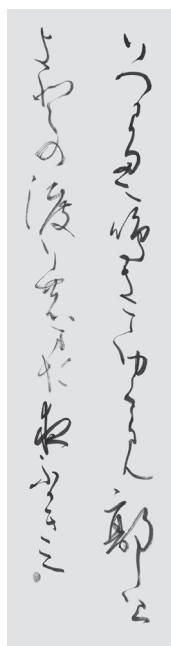
秋桜 門真みい子



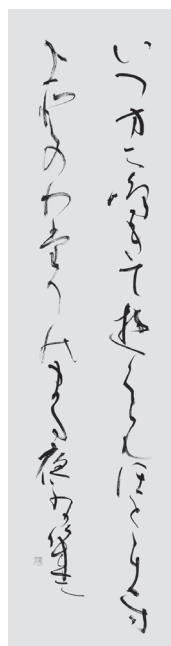
書学 槻木 新一



水荃 辰巳 望雲



水荃 川上 直子



〇ー 高橋 英秀

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

水荃 青戸佑吉

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

M M 日山 貴子

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

水荃 布川裕美子

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

書学 鈴木 哲

麦畑にあやめ四五本まじりけり
七ながら君の書を見るがごと

小絹 小畑 知子

麦畑にあやめ四五本まじりけり
七ながら君の書を見るがごと

有彩 池田有紀子

麦畑にあやめ四五本まじりけり
七ながら君の書を見るがごと

書学 松田 彩

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

九書 垣田 理恵

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

広島 好田 萩水

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

万里 神之田澄水

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

伊賀 岡田 宏美

麦畑にあやめ四五本まじりけり
七ながら君の書を見るがごと

小諸 篠原 智巨

麦畑にあやめ四五本まじりけり
七ながら君の書を見るがごと

水荃 木脇 美香

麦畑にあやめ四五本まじりけり
七ながら君の書を見るがごと

書学 菅家 歩

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

書学 浅野 春岳

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

書学 豊福絵里子

紀伊の海の塩氣のけむりたつ濱に
鳥は下り居り寂しくもあるか

恵那 林 里美

麦畑にあやめ四五本まじりけり
七ながら君の書を見るがごと

書学 佐藤 尉子

麦畑にあやめ四五本まじりけり
七ながら君の書を見るがごと

シヨ 角田 幸広

麦畑にあやめ四五本まじりけり
七ながら君の書を見るがごと

書学 志村 望

麦畑にあやめ四五本まじりけり
七ながら君の書を見るがごと

武庫 伊谷めぐみ

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	春水 竹内美智代		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	圭石 品田 依子		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	江川 安部 静子		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	書学 笠原 玉蘭		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	堺 小野 和子		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	金子 金子シゲ子		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	ぬま 齊藤 和青		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	天草 黒川 良子		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	こず 村岡 初江		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	伊賀 山 田 善 永		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	清 和 永 瀬 和子		

教習名	春日茶どろろの友人から自家特製の 新茶が届きました大変おいしゅう ございますのでお福わけいたいたく		
氏 名	こま 植田 明子		

龜值浮木孔而我等宿福深厚生值佛法
是故父母當聽我等令得出家所以者何
諸佛難值時亦難遇彼時妙莊嚴王後宮
八萬四千人皆悉堪任受持是法華經淨
眼菩薩於法華三昧久已通達淨藏菩薩
已於無量百千萬億劫通達離諸惡趣三
昧欲令一切衆生離諸惡趣故其王夫人
得諸佛集三昧能知諸秘密之藏二子如
是以方便力善化其父令心信解好樂佛

習志 安廣 清翠

龜值浮木孔而我等宿福深厚生值佛法
是故父母當聽我等令得出家所以者何
諸佛難值時亦難遇彼時妙莊嚴王後宮
八萬四千人皆悉堪任受持是法華經淨
眼菩薩於法華三昧久已通達淨藏菩薩
已於無量百千萬億劫通達離諸惡趣三
昧欲令一切衆生離諸惡趣故其王夫人
得諸佛集三昧能知諸秘密之藏二子如
是以方便力善化其父令心信解好樂佛

書学 和久津久美

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

やの 野口 翠隄

龜值浮木孔而我等宿福深厚生值佛法
是故父母當聽我等令得出家所以者何
諸佛難值時亦難遇彼時妙莊嚴王後宮
八萬四千人皆悉堪任受持是法華經淨
眼菩薩於法華三昧久已通達淨藏菩薩
已於無量百千萬億劫通達離諸惡趣三
昧欲令一切衆生離諸惡趣故其王夫人
得諸佛集三昧能知諸秘密之藏二子如
是以方便力善化其父令心信解好樂佛

伊賀 石田 春代

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

湘花 阿部のり子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 山根美枝子

龜值浮木孔而我等宿福深厚生值佛法
是故父母當聽我等令得出家所以者何
諸佛難值時亦難遇彼時妙莊嚴王後宮
八萬四千人皆悉堪任受持是法華經淨
眼菩薩於法華三昧久已通達淨藏菩薩
已於無量百千萬億劫通達離諸惡趣三
昧欲令一切衆生離諸惡趣故其王夫人
得諸佛集三昧能知諸秘密之藏二子如
是以方便力善化其父令心信解好樂佛

日報 嶋岡 淳子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 尾崎美和子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 宮下 香奈

審査評―秋山 凌雲

規定 「仙嶺」



書字 石井 孝夫

上部を密にして、下部を疎にした章法。線も潤渾が表現されている味わい深い作。



書字 金丸 洋輔

齊白石の雰囲気漂わせる力強い刀法。分間を極限まで詰めたことにより朱白が鮮明で目を引く作。



書字 嬉野 満利子

石印材で刻しているが陶印を感じさせる刻線。左側の外郭を大胆に取り除いたことが功を奏した。

随意 「人間萬事塞翁馬」



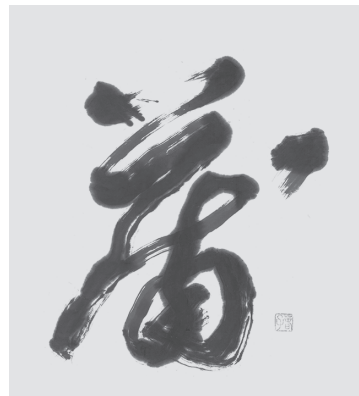
島田 田村 潔

字法、章法共に優れた実力が窺える作。但し刀先で突ついていた様な撃辺や線の欠けは痛々しく見えるので更なる研究を。

規定 (蒲)

審査評―石橋 鯉城

書美の真髄を求める漢字の一字書――



広島 好田 萩水 一字書での表現の妙をよく理解し、簡にして要を得た作。墨色の変化も青墨を用いて実に美しい。心技一如。字が立つ。

大門 小澤 美佐子 気魄に富んで筆力充分。少し黒々として品致を損う看板の字風になりがちだ。磨墨による墨色の変化。縮墨等の使用も試みたい。

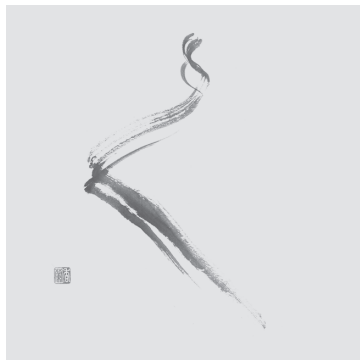
茨城 石塚 五牛 特異な筆を用いての表現と見え、終筆が一寸決まらない。しかし、墨色の変化と遊び心で娛ませる作。

日南 荻下 春子 昔から書美は点画の表現にありと言うが実に達筆。草の手により蒲の十二画迄、一筆で書きながら最後の一点と押印を以って右辺が活きて完成。

随意 (く)

審査評―石橋 鯉城

詩情や筆遣ひの極意を知る平がな表現――



兵庫 絹川 佳苑 大らかで屈託なく軽快な筆遣い。好感のもてる作。多くの人が考え過ぎていたので、これ程素直な作は他になかった。起筆の妙見るべし。

水窪 浦上みどり 広い空間に一筆で書き上げる作品として「く」は仲々難しい。長鋒羊毫の細い筆で骨力で示して、余白も活きている。

平心 長田 哲香 常識的な平がなの「く」の字を書いて間違いのない姿を表す。起筆での溜めがあれば線の変化や暢びやかさも出し得たに違いない。

水窪 山崎ミユキ 右辺に余白を残し、柔軟な仮名の線が見事な作。起筆の筆の入り方絶妙。終筆の上線の長さが止まれば余韻も生じただろう。